



衛星データビジネス公開マッチング

株式会社Synspective

2026年2月19日



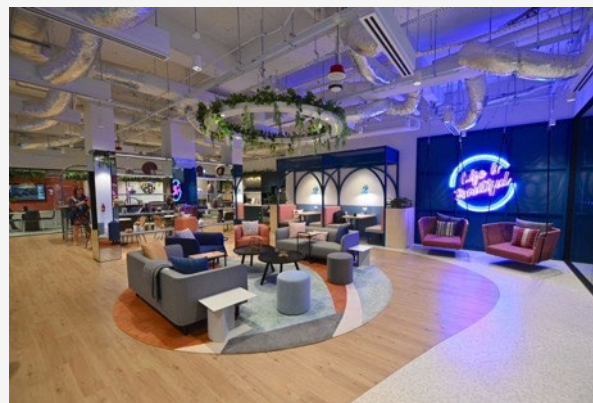
Synspectiveは、自社独自の小型SAR衛星の開発から、衛星コンステレーションを構築し、SARデータの販売とデータ解析技術を用いたソリューション事業を展開しています。

会社名	株式会社Synspective
設立	2018年2月22日
資本金	11,099百万円（2025年9月末時点）
本社所在地	東京都江東区三好三丁目10番3号
グループ会社	Synspective SG Pte. Ltd.(シンガポール) 株式会社Synspective Japan（東京都江東区） Synspective USA HD, Inc.（米国デラウェア州） Synspective USA, Inc.（米国コロラド州）
従業員数	222名（連結、2025年9月末時点） 23カ国のグローバルチーム
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ SAR画像データ販売 ・ 衛星データを利用したソリューションサービス ・ 小型SAR衛星の開発・運用

本社 / Synspective Japan



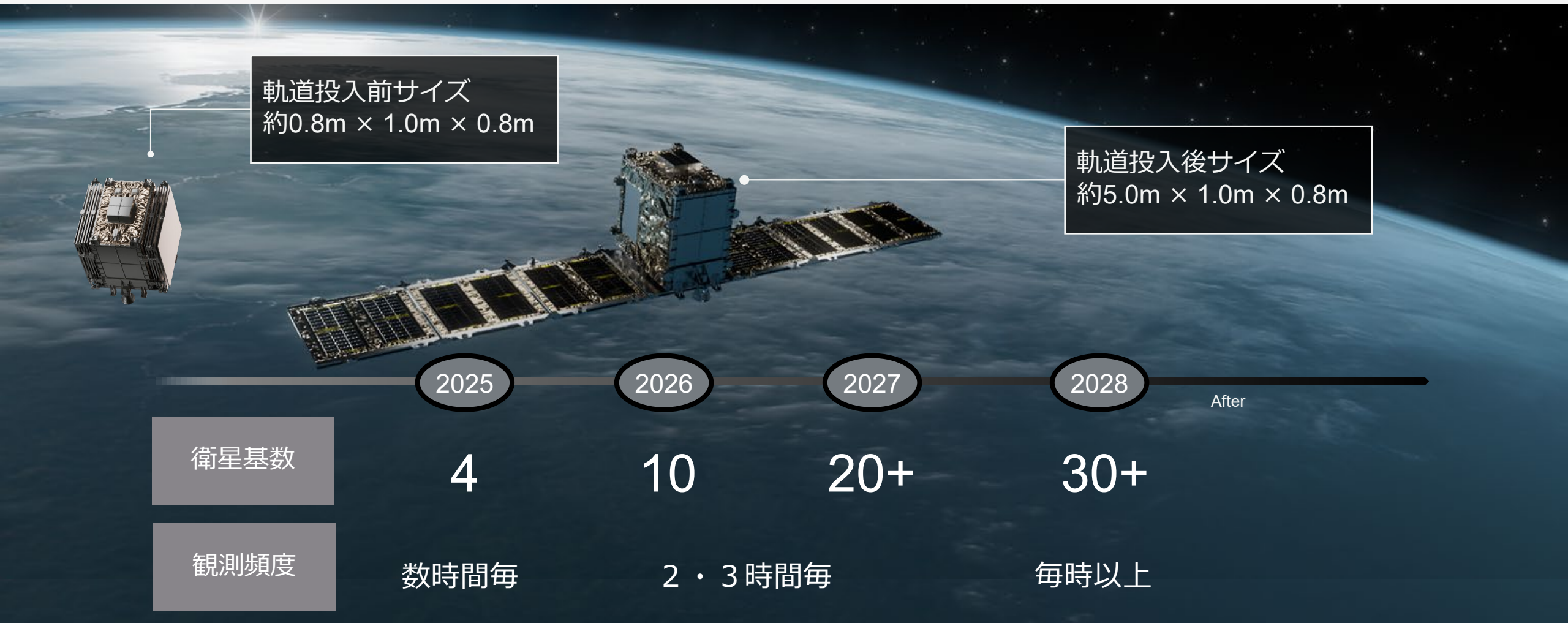
Synspective SG Pte. Ltd



大和テクノロジーセンター



StriXは内閣府「革新的研究開発推進プログラム (ImPACT)」の成果を応用し、JAXA、東大、東工大等と共同開発された衛星です。2028年には世界のあらゆる地域をほぼリアルタイムで観測できるように30機での衛星コンステレーション構築を予定しております。



StriXは世界最高レベルの地上分解能を実現し、観測モードの切替えにより現状他衛星事業者を上回る広範囲撮像も可能です。加えて災害等の緊急時には迅速な画像デリバリーも実現しております。

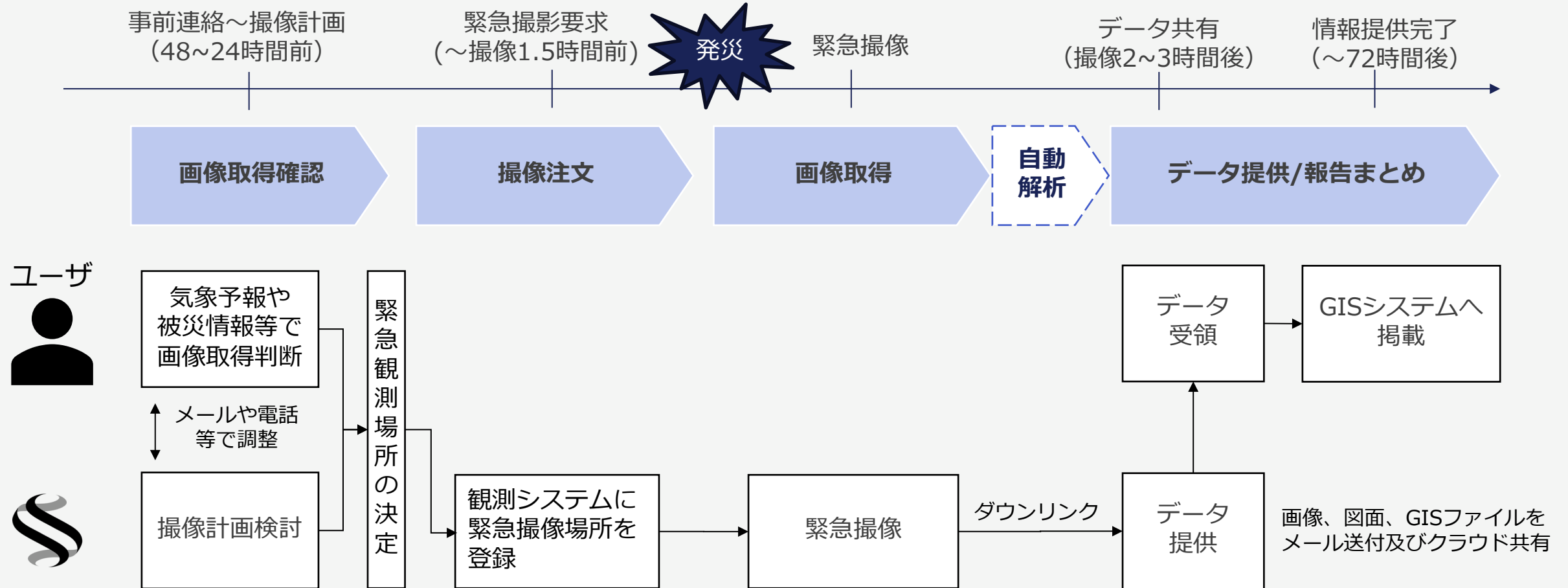
※緊急撮像のデリバリー時間の実績は個別にお問い合わせください

■ 各衛星事業者のスペック比較（観測モードは各社の高分解能モードでの比較）

社名	国	創業年	観測モード	地上分解能	撮像域
Synspective	日本	2018年	Staring spotlight mode (高分解能モード)	0.25m	10km×3km
			Sliding Spotlight mode	0.5m	10km×10km
			Strip map mode (広範囲モード)	2.6m	20km×50~ 500km
A社	フィンランド	2014年	高分解能モード	0.25m	5km×5km
B社	アメリカ	2016年	高分解能モード	0.25m	5km×5km
C社	アメリカ	2015年	高分解能モード	0.25m	10km×10km
D社	日本	2005年	高分解能モード	0.46m	7km×7km

2025年度は以下の緊急撮像フローにて前頁の撮像後2時間以内のデータ提供を実現
2026年度以降はプラットフォームからユーザが直接緊急撮像を注文するフローも整備

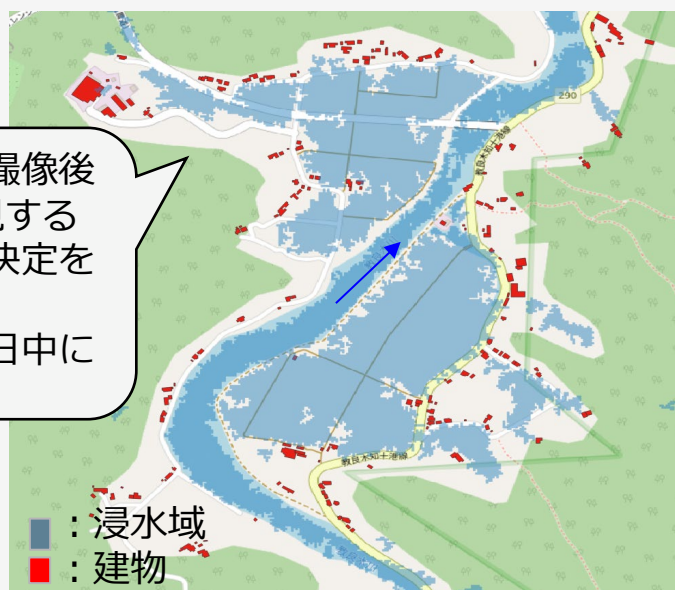
<緊急撮像フロー>



自社衛星であるStriXの衛星画像を活用して自然災害被害の状況把握を支援しております。（状況に応じてStriX以外の衛星画像も活用します。利活用シーンに合わせて最適な衛星画像の組み合わせをご提案します。）

浸水解析

- 刻々と変化する浸水区域を把握し、避難や洪水防災活動に関する意思決定を支援します。
 - 浸水域ポリゴンデータを顧客に提供
 - 浸水面積、浸水家屋数も併記
 - マップ上に浸水域と浸水建物を図化



被害建物検出

- 被災後1回の撮像により、夜間・曇り・火炎のある状況でも家屋倒壊（ハイリスク）エリアを推定して家屋被害の概略把握を支援します。
 - 2025年11月18に発生した大分市佐賀関で発生した火災について、火災が発生した範囲*で被害可能性が高い建物が多く検出できました。





Synspective